学力向上のための重点プラン【小学校】　新宿区立落合第二小学校

■　学校の共通目標

授業作り	重点	・児童が主体的に学習を進められるような「問い」や「振り返り」を重視し、問題解決型の単元を構成した授業作りに努める。特に、効果的な ICT 機器の活用、学び合う場面を設定し、学びを深めるようにする。
環境作り		・教室前面の視覚的刺激を調整し、時間の視覚化や学習の見通しを提示するなど、児童が学びやすい環境を整える。ﾀﾌﾞﾚｯﾄ端末の活用、個に応じた教材の準備など、一人一人に応じた個別の配慮等、ユニバーサルデザインの視点で環境作りを行う。

■　学年の取組について

学年	学習状況の分析（各種調査から）	学校が取り組む目標（日常の授業の様子から）	目標達成のための取組
1学年		・正しい平仮名やカタカナ、漢字、助詞の使い方を習得していく。 ・語彙力を増やし、文の中で適切に活用する。 ・１０までの数、２０より大きい数などでは、具体物を活用したり、既習事項を確認しながら反復したりして、練習問題に取り組み、計算力を高める。 ・文章問題で問われていることを理解し、自力で解くことに取り組む。	①　週に１回視写の時間の有効活用 ②　児童が見付けた言葉を「言葉の宝箱」としてタブレット端末へ保存 ③　計算カードやデジタルドリルの活用 ④　文章を丁寧に読み、大切な場所にアンダーラインを引くなどの指導の継続
2学年		・字形に気を付けて丁寧に、正確に漢字を書く力を向上させる。 ・自分の考えを分かりやすく文章に書き表す力を向上させる。 ・１０のまとまりや位を意識しながら、たし算やひき算を正確に解く力を伸ばす。 ・文章問題を理解し、正しく立式する力を向上させる。	①　プリントやデジタルドリル等を活用した反復練習 ②　助詞や句読点に気を付けた日記や作文指導の継続 ③　具体物の操作を取り入れた学習 ④　絵や図等で問題の場面を想起する場面の設定
3学年	・漢字の読みについては高い水準にある。場面の様子を読み取り、想定される言葉を書くことに課題がある。 ・文章を見直し、理由や構成がしっかりしているか振り返ることに課題がある。 ・繰り上がりのある加法や減法についての知識や技能については高い水準にある。 ・時刻や図形の読み取りについては個別に支援が必要である。	・辞書の使い方を指導し、分からない言葉があるときに辞書を引く習慣を付け、語彙を増やす。 ・「はじめ・中・終わり」を明確にした構成メモを作成し、つなぎ言葉を使い、理由を明確にした文を書けるようにする。 ・新しい問題を解くときに、これまでに学習したことをどのように使えば解くことができるかを考えるようにする。 ・ＩＣＴを活用し、具体的な操作活動や図を用いた説明などを取り入れることで、時間や空間の感覚を向上させる。	①　様子を表す言葉などを使った短作文の取組 ②　ＩＣＴ機器を活用した振り返りの時間の設定 ③　既習事項を反復で取り組む機会の確保 ④　ＩＣＴ機器を活用した少人数でのグループ活動の設定

4学年	・登場人物の心情を読み取るなどの知識や技能は、高い水準にある。 ・分からない単語や表現をしっかりと調べて使うことに課題がある。 ・数量の関係を式に表し、答えを求める計算技能は、四則計算どのやり方でも高い水準にある。 ・問題を解いた後で、もう一度解き方を振り返り、より良い解き方を考える活動を増やしていく必要がある。	・さらに、読み取ったことについて叙述をもとにしながら根拠を述べられる力を付ける。 ・わからない単語や表現が出てきたら、調べてメモをする習慣を身に付ける。 ・計算技能により、自信がもてるようにする。 ・解き方を伝え合う活動を通して友達の解き方の良さに気付き、実践できるような授業を展開する。	① 根拠となる文章にアンダーラインを引かせ、考えを説明する活動の設定 ② 辞書やタブレット端末の活用 ③ デジタルドリルを活用した反復学習 ④ 解き方を説明し合うペア活動やグループ活動の設定
5学年	・自分の考えをもち、正確に伝えるためにより多くの語彙を獲得して使用する習慣を付けることが必要である。 ・文章の構成を考えながら、自分の考えを的確に書いて表現する力をつけることが必要である。 ・図形を構成する要素や性質を理解し、活用する力の向上が必要である。 ・変化と関係についての力の向上が必要である。	・常に辞書を使って言葉の意味を調べたり、並行読書にも取り組んで読書記録を付けたり、多くの言葉や文章に触れる機会を作る。 ・テーマや文字数を決めて、「はじめ・中・終わり」を意識しながら、内容尾中心を明確にして、詳しく具体的に書く力をつける。 ・ＩＣＴ機器を活用し、具体的な操作活動や図を用いた説明などを取り入れることで、立体に関する感覚を向上させる。 ・表に整理し、変化の特徴を考察する力をつける。	① 具体的操作、タブレット端末を活用する学習の設定 ② テーマや内容、字数を設定した短作文の活用 ③ 解き方を説明し合う時間の設定 ④ 様々な結果を表にまとめる学習の設定
6学年	・言語や読むことなどの知識・技能は、高い水準にある。 ・漢字を書くことや条件にそって文章を書くことに対し、個別に支援が必要である。 ・様々な計算の知識・技能は、高い水準にある。 ・図形やグラフ、データの扱いについて個別に支援が必要である。 ・周囲とアドバイスし合ったり、考えを伝え合ったりする活動を増やしていく必要がある。	・授業への意欲的な参加を継続するとともに、家庭学習の定着をより一層促す。 ・漢字や言語の学びを反復して学んだり、文字数を徐々に増やす短作文に取り組んだりし、「書くこと」への抵抗感を減らす。 ・計算力にさらに自信がもてるように、計算のきまりや正しく筆算できるように反復する。 ・図形を正しくとらえたり、データを正確に分析したりできるように、スモールステップで授業を展開する。 ・自分の考えに自信をもったり、意見を深めたり広げたりしながら、学びを自ら進めていくために、意図的に交流を増やす。	① 児童一人ひとりに合った課題や学習方法の例示 ② テーマや内容、字数を設定した短作文の活用 ③ デジタルドリルやプリントを活用した反復学習 ④ ユニバーサルデザインを意識した拡大プリントの活用や道具使用への慣れ ⑤ 意図をもったペアやグループ学習を繰り返し設定
特別支援		・日常に必要な言葉や手紙等を書く機会を設け書く力と伝える力を育成する。 ・日常生活の様々な場面を想定し、計算などに取り組む必要がある。 ・個に応じた課題を達成する。	① 日常生活の指導での発表等を通した表現活動 ② 毎日の日課帳での振り返り ③ タブレット端末の活用 ④ 具体物の操作を取り入れた学習 ⑤ 小集団学習と個別学習の充実